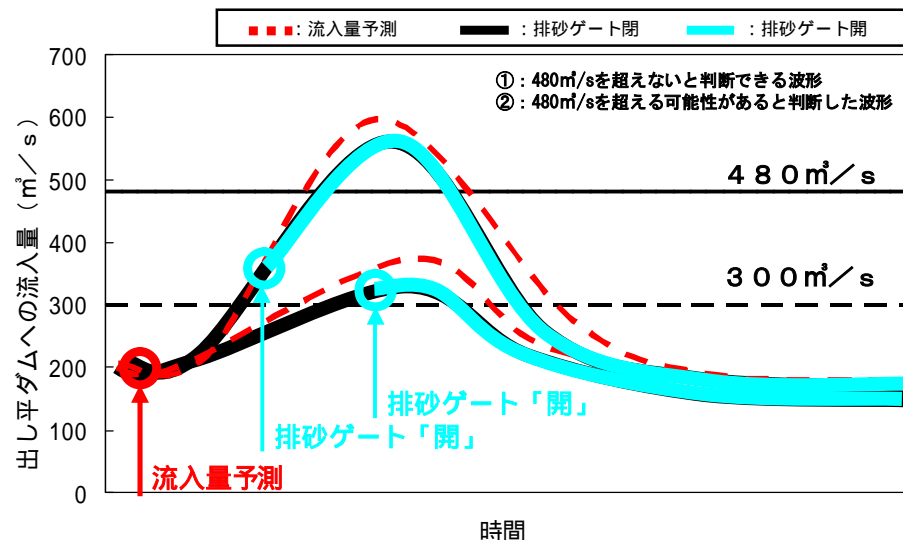


目的

第36回黒部川ダム排砂評価委員会において、「(前略) 今回の審議内容を踏まえ、細砂通過放流の実施時期等を検討の上、次年度の排砂計画に反映させること」と評価されている。今回、**梅雨期間中**の細砂通過放流の実施方法を検討し、試験的に運用するものである。

平成23年の試験的運用イメージ(出し平ダム)



出し平ダム流入量が300m³/sもしくは宇奈月ダム流入量が400m³/sを超えた場合、細砂通過放流を必ず実施。

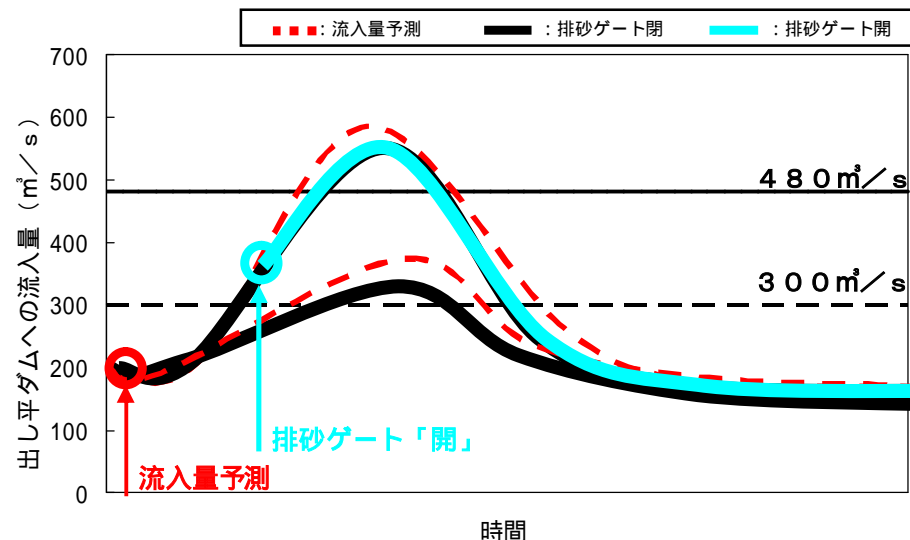
波形

細砂通過放流実施する

波形

細砂通過放流実施する

平成24年梅雨期間中の試験的運用イメージ(出し平ダム)



出し平ダムへの流入量予測において、480m³/sを超過する可能性があり、かつ流入量が300m³/sを超えた場合、細砂通過放流を実施する。

宇奈月ダムが先に細砂通過放流実施基準流量(400m³/s)に達した場合は出し平ダムの流入予測を参考に実施の可否を判断する。

波形

細砂通過放流実施しない

波形

細砂通過放流実施する

目的

平成23年度の梅雨時期の通砂・細砂通過放流の予測・実測流入波形をもとに、平成24年度の細砂通過放流試験運用を適用した場合の実施状況を検証する。

予測流入量と実測流入量

通砂

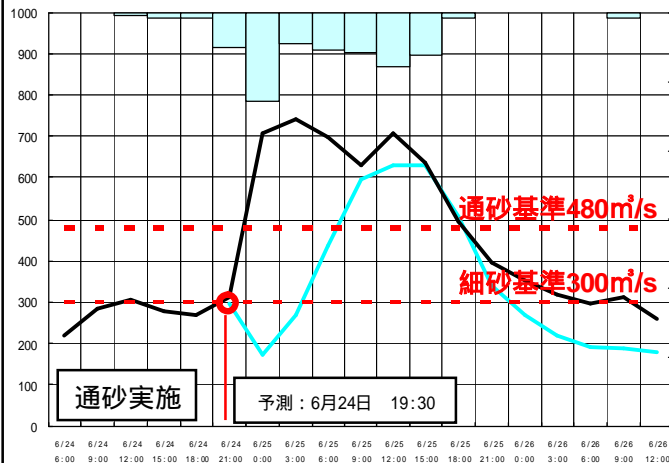


図1-1 通砂時予測と実測流入量

第1回細砂通過放流

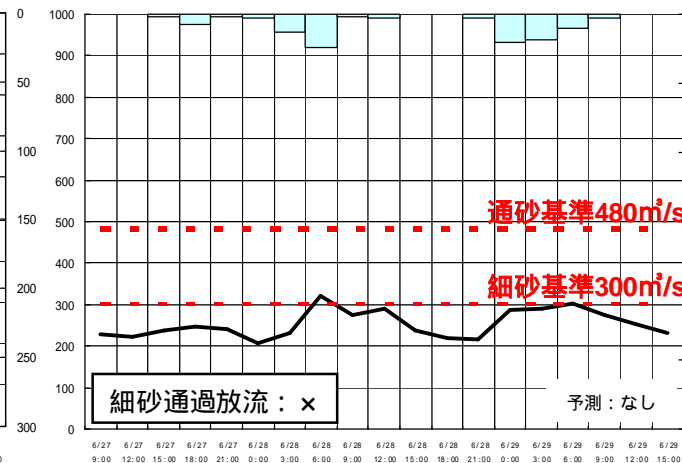


図1-2 第1回細砂通過放流実測流入量

第2回細砂通過放流

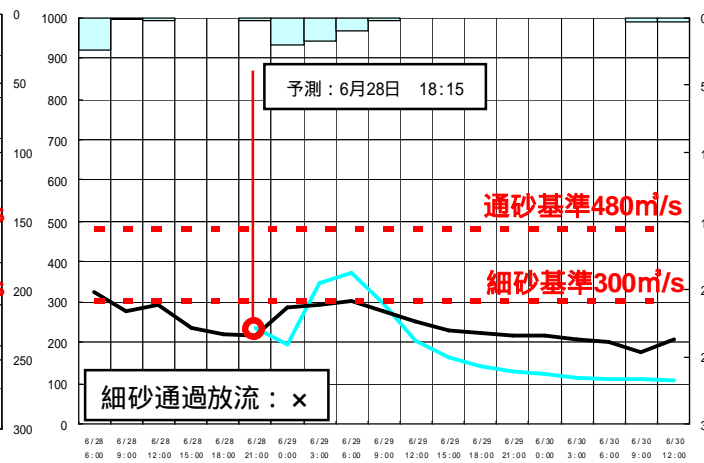


図1-3 第2回細砂通過放流時予測と実測流入量

第3回細砂通過放流

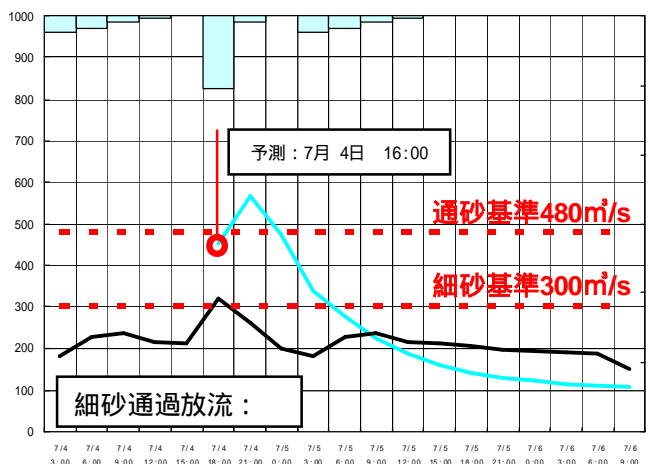


図1-4 第3回細砂通過放流時予測と実測流入量

第4回細砂通過放流

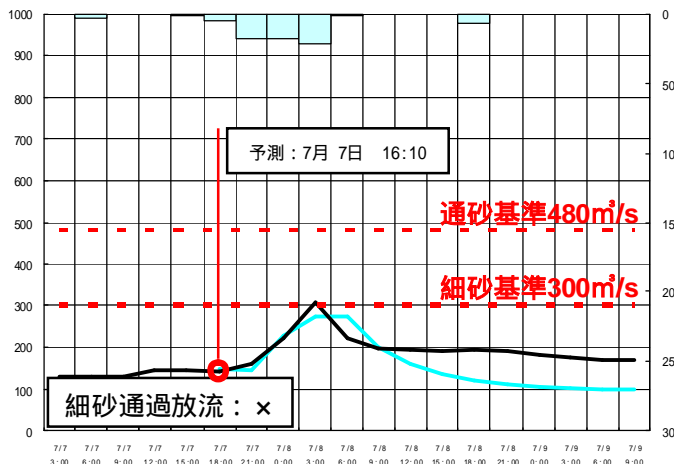


図1-5 第4回細砂通過放流時予測と実測流入量

【凡例】

- 予測流入量 : (Cyan line)
- 実測流入量 : (Black line)
- 降雨量 (流域平均3h合計) : (Light blue bar)

